

学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属中学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体

※詳細は、本校HPを参照してください

○『共に』をキーワードに学校研究として取り組んだ授業改善

【研究テーマ】 学ぶ意義を考え、学びに向かう力を育む授業改善

1年目⇒ ICTと『共に』ある授業

2年目⇒学習者と『共に』ある授業

【取組事例】研究の柱の説明と実践の一部

①学ぶ意義を考え、見出させる授業力向上（『問い』による）

授業改善のポイントとしての『問い』の工夫

『問い』=学びだすエネルギー、
学ぶ続けるエネルギーとなる
「疑問」や「解決したい課題」
学習者がこの『問い』を持ち、頭を働かせるように促す仕掛け
(単元計画・授業に位置づける)

学ぶ意義を考え、見出した学習者は、自然と学びの経験を次の学びや行動に生かそうとする
○「もっと調べてみたい」や「次はこれを考えたい」といった好奇心
○積み重ねた経験によって進む肯定的自己理解「これができた」「こんなことをやっていた」



学習者参加の授業研究会
学習者のことばをよりどころに
『問い』を検証

授業力向上に向けた
授業実践(1人1授業)

③「生徒と共に創る授業」の推進

学習委員会による「学びを紡ぐ5つの約束」

R4 学びを紡ぐ5つの約束

1. 学習者としての心構え、ありさまをつくらう
2. 授業者(先生・授業の担い手)は自分たちの手でつくらう
3. 『問い』を大勢にする学習環境にならう
4. 学びを紡ぐ5つの約束を共有し、実践にならう
5. 次につなげるために語りあおう

R5

1. 学習者としての心構え
高次学習力をつくらう
○進路の準備
○2分前授業、1分間黙想
○挨拶
○姿勢
○挨拶物
2. 授業の雰囲気は自分たちの手でつくらう
○メリハリ
○整理整頓
○礼儀の心配り
○服装の清潔
3. 『問い』を大勢にする学習環境にならう
○話し合い
○高め合い
4. 学びを紡ぐ5つの約束を共有し、実践にならう
○正しい問いの
○自分たちの考えを共有する環境づくり
5. 次につなげるために語りあおう
○『問い』を繋げる
○課題を解決

学びを紡ぐ5つの約束



「これからめざす
学びの姿」について
校長に思いを語る
学習委員長

②主体的・対話的で深い学びを豊かにするICTの効果的な活用

「～しやすさ」 + 心構え

に着目した授業実践

を生徒の言葉で整理

- ①書きやすい・消しやすい
- ②動かしやすい・試しやすい
- ③共有しやすい・連動しやすい
- ④大きくしやすい・着目しやすい
- ⑤繰り返しやすい・確認しやすい
- ⑥残しやすい・比べやすい
- ⑦説明しやすい

放送大学 中川一史教授の講演より引用

- ①情報モラルの正しい理解
(ICT端末を使用する者として自己責任を自覚する)
 - ②目的に合った正しい活用
(目的達成のための道具だと意識する)
 - ③正しくコントロールされた自分
(「ダメなことはダメ」と判断する)
 - ④現実とつないだイメージ
(ICT端末が「実生活へ与える影響を考える」)
- +ICT端末を貸与してもらっていることを自覚する



使いながら学ぶ授業者と活用方法を探る授業者
ICTと『共に』ある学びの形の実現を目指した年間
3回のICT活用実践交流会(R4年度実績)

③「生徒と共に創る授業」の推進

【附中×GIGA】Supporters Team (通称 GIGAサポ)

- GIGAサポによる授業
 - ・全校に向けた「情報の信頼性」についての授業
 - ・学年に向けた各学年のGIGAサポによる授業（SNSとの付き合い方、健康との関係など）
- 行事、集会の準備から中継、片付け
 - 全校が体育館に集まるのが難しい中、行事を各教室に配信した。
- 「端末の使用規定」の見直し
 - 教職員が作成した「端末使用規定」を生徒の言葉で発信するものに改定・編集を行った



学習者である生徒が『端末使用の約束』を作成
授業者である教職員に説明